

Contents

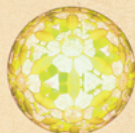
かつしかトピック

Topics
006

郷土かつしかの歴史や民俗、文化財にまつわる話を
不定期でお届けするコーナーです。

第6話のお題は

「かつしかとマコモ」!



マコモで作られたガラガラ簀。
仏の腰かけともいう。



江戸川の河川敷のマコモ

No.

1 4 2

戦後80周年「かつしかと戦争」パネル展

昭和20(1945)年に終戦を迎えてから、今年で80年になります。

第二次世界大戦下の葛飾区内の状況、教育や地域、暮らしに与えた影響を紹介します。

会期 令和7年 8月2日(土) — 10月5日(日)



学童集団疎開の様子。
疎開先の新潟県内の学校。
村の子どもたちと一緒に勉強した。



学校から帰ると自由時間。
上級生も下級生も一緒に
なって、しょうぎや
トランプなどで遊んだ。



お知らせ

プラネタリウム機器更新による休止について

休止期間は下記のとおりです。

再開時期などについては、ウェブサイトや

葛飾区の広報誌「広報かつしか」でご案内します。

休止期間

令和7年

7月1日～10月31日(予定)



当館公式キャラクター
ギョギョくん

2025 11.1 プラネタリウム

投映再開!



機器更新後のイメージ

かつしかとマコモ

マコモはイネ科の多年草で、水辺に群生し、成長すると人の背丈より高く伸び、6月～7月頃に緑色の葉を成長させ、冬になると黄色く変色します。

古来より神社仏閣の神事や、屋根を葺いたり寝床を作るなど生活用具として活用され、万葉集にも詠まれており、日本人と関わりが深い植物です。タケノコと食感や味が似た食材の「マコモダケ」は、黒穂菌が付着し肥大化したマコモの根本の部分です。黒穂菌により得られる色素は絵の具や眉墨にもなるなど、その用途は多岐に及びます。

河川が多い葛飾でもマコモは人々の暮らしに身近な植物でした。マコモは現在でも、水元公園や、江戸川、中川などの河川敷で見られます。葛飾で夏の時期に様々なものに利用されてきたマコモについてご紹介します。



江戸川の河川敷のマコモ

七夕飾り

葛飾区で一般的な七夕飾りとして飾られる七夕馬と牛は、マコモで作られます。葛飾区では七夕は盆の行事のはじまりとされ、7月もしくは8月7日に行われます。マコモで馬と牛を作る理由は定かではありませんが、一般的にはお盆に帰ってくるご先祖様の乗り物と言われています。馬と牛は6日に作り、7日の朝になると、庭に2本の笹を立て、マコモで作った縄を張り、中央に、向かい合わせのマコモの馬と牛を下げます。そのほか、ほおずきや枝豆、出穂したばかりの青いうちの米の穂などを飾ります。笹の間には、棚を作り、旬のカボチャやトウモロコシ、新麦で作ったうどんや小麦まんじゅうをお供えしました。七夕が終わると翌日には、馬や牛は子どもたちの遊び道具になり、家中を引っ張って遊び、最後は川に流しました。

マコモで馬や牛を作る地域は、そう多いわけではありません。全国的にみると、雄雌の馬を作る、馬を多数作る地域もあります。材料も稲ワラやチガヤ、麦ワラのほか、たてがみを作る時に、トウモロコシのひげや田植えの際に神様に供えた苗代を使う地域もあるそうです。葛飾区では、この時期に柔らかくて、青々としたマコモが各所で容易に取れるため、七夕馬と牛の材料に利用されてきたのではないかと考えられます。



七夕祭りの飾りつけ。
マコモで作った馬と牛に米・酒や夏野菜を供える。



七夕馬、牛作り



七夕お供物



マコモ膳(盆ござ)

葛飾区ではお盆の祭壇である盆棚に使うマコモ膳(盆ござ)を作って出荷する農家が多くありました。この時期に収穫したマコモの太い茎の部分等を間隔で切り、同じ太さのもので編んでいきます。マコモ膳はお盆の前だけしか取引されないもののため6月から7月頃の農作業が終わる夕方から、そして、夕飯を済ませてから寝るまでの間、たくさんのマコモ膳を制作しました。この



盆棚にしくマコモの膳を作る



お盆の間先祖をもてなす盆だな。中央に見えるのがマコモ膳

時期には、地域で競うようにして、農家では多くのマコモ膳を作っていました。平成に入るところには区内ではほとんど見られなくなりました。



墓に設置されたガラガラ膳

ガラガラ膳

ガラガラ膳とは、ノダナや仏の腰かけとも呼ばれており、十字に組んだ竹に、マコモを編み込み、土にさして、墓に設置する膳のことを言います。墓のほかに、道端にも無縁仏のために膳を作ります。水元ではこのお膳にさいの目に切ったナスと、お水とあんころもちをお供えします。金町では、仏様の数だけガラガラ膳を作り、お墓の周りに置くのだそうです。ある程度の強度があるマコモだからこそ、竹をしならせて土にさしても、膳としての形を崩すことなく設置できるのではないかとされています。

葛飾区とマコモの現在

都市化が加速した昭和50年代になると、葛飾区の水辺は、都市河川となり、コンクリートでふたがされるようになりました。いたるところで見られたマコモも、区内の限られた場所ではしか生息できなくなったのです。そのため、農家はたくさんのマコモを求めて、埼玉や茨城まで車で取りに行くようになりました。しかしながら、平成に入るところには、マコモを利用した生産物の取引も珍しいものとなり、現在は区内でマコモを手に入れることさえ困難となりました。

マコモの七夕馬と牛の作り方を教えてほしいと、区内の農家の方にお問い合わせしたときに、「いつでも教えてやるから、柔らかくて青いマコモをひとマルキもってきな」と言われました。葛飾区では、夏に取れるマコモという植物が、いかに重要視されていたのか、そしてその植物が都市化してしまった現在、とても貴重なものになってしまったことを知った瞬間でもありました。

博物館では現在、区内のマコモの生息地を調査し、博物館ボランティア「田んぼサポーター」の皆さんと、区内のマコモで七夕馬と牛を作る取り組みを行っています。今年は実験的に牛と馬を複数作りましたが、次年度以降は、刈り取りの時期や、7月7日に間に合うように、マコモ馬と牛の制作を行い、博物館で葛飾区の伝統的な七夕飾りの復元を行い、展示などで皆さんにご紹介していきたいと考えています。なお、田んぼサポーターとして活動を共にすることもできます。興味のある方は、博物館までご連絡ください。



水元小合溜でのマコモの刈り取りの様子



田んぼサポーターが作ったマコモの馬(上)と牛(下)



いたるところに水路があった時代のマコモの刈り取り

軍馬の飼料を採集する
奉仕活動(高砂)



！ 最新情報はウェブサイトをご覧ください。

